

所属ゼミ	高木 研究会	学籍番号	80530305	氏名	川口 信之
(論文題名)					
<p>雇用流動する MR (医薬情報担当者)</p> <p>—国内中堅製薬会社の経営者・マネージャーへの提言—</p>					
(内容の要旨)					
<p>近年 製薬業界を取り巻く環境は大きく変化している中、製薬会社の売上拡大は MR (医薬情報担当者) が握っているといわれており、各社 MR 数の増員が続いている。この流れを作ったのは、1990年代後半から外資系製薬会社の日本市場への本格進出であった。そして、MR を流動化させたのは、1997年から始まった MR 認定制度であり、1999年労働者派遣法で誕生した CSO (医薬品販売業務受託企業) の参入であった。MR の流動化が急激に進み、大手・外資系製薬会社が大量の中途採用者を引き抜いており、国内中堅製薬会社では MR 流出に歯止めがかからない状況になっている。</p> <p>国内中堅製薬会社の流出防止を考えるに当たり、MR が仕事に関して重要視する要因や転職の引き金になる要因を知るために、アンケート調査 (24社 340人) とインタビュー調査 (15社 15人) を実施した。</p> <p>調査結果から明らかになったのは、会社に満足する要因として、「自己実現度」「職務権限度」「職場環境度」「就業意欲度」の4つが影響を及ぼしていることがわかり、特に、「自己実現度」「就業意欲度」が大きく影響していることがわかった。</p> <p>また、国内中堅製薬会社の問題点としては、「年収」「会社の将来性」「上司との関係」「ワーク・ライフ・バランスの関係」が挙げられ、大手製薬会社と比べ、会社への満足度が低く約6割が転職予備軍であった。</p> <p>得られた分析結果をもとに、国内中堅製薬会社の経営者・マネージャーに、MR 定着を図るための提言を行なっている。</p>					